

Kanayamachi Rakuichi

金屋町楽市 in さまのこ 芸術文化学部地域連携プロジェクト

富山大学芸術文化学部教授 武山 良三



■ 3つのイベントを連携させた「工芸都市 高岡の秋」

「金屋町楽市inさまのこ（以下楽市）」は、高岡鋳物発祥の町・金屋町一帯を美術館に見立てた地域イベントです。千本格子が美しい伝統的な町並みと地場で継承されてきた鋳物や漆器などの工芸とを相乗させることで、金屋町の魅力を再認識することを意図しています。9回目を迎える平成28年度は、イベントがマンネリ化しないよう、新規性と継続性をバランス良く保つことを課題として取り組みました。

大きな試みとしては、これまで別々に開催していた「工芸都市高岡クラフト展（以下クラフト展）」、「高岡クラフト市場街（以下市場街）」とを同時に開催したことです。3つのイベントを連携させることでより強い発信力を持たせ県外からの集客を図りました。「工芸都市 高岡の秋」という冠名を設定すると共に、イベント内容を組み合わせました。式典や講演会を統合、展示やワークショップの場所や時間を調整、ポスターなどの広報物を一本化しました。楽市では平成21年度から「金屋町楽市賞」を選定して来ましたが、これもクラフト展の中で顕彰していくことにしました。大和 高岡店のクラフト展が開催されている会場前で楽市の特設展示を、金屋町の楽市会場では歴代のクラフトコンペ受賞者を集めた展示を行う他、市場街のコンシェルジュブースを設けるなど相互連携を推進しました。市場街では札幌のデザイン関係者との事業を行っていましたが、楽市会場にも札幌からの関係者をはじめ、関東や関西など遠隔地からの来場者があり、連携した効果が確認できました。

■ 楽市らしさを求めた展示

3つのイベントの同時開催は集客力を高めるだけでなく、それぞれの開催意義を明確化することにも繋がりました。クラフト展や市場街がモダンなライフスタイルに対応した「クラフト」を主題としていることに対し、楽市では伝統文化を土台とした「工芸」にフォーカスを当てて展示構成を行いました。楽市の開催テーマは「暮らしの光」とし、日常の何気ないシーンに光を当て、美を

見い出せるような展示を行いました。唐木さち氏を招聘し、各町屋での生花展示を実施しました。唐木氏は流儀にこだわらず、野に咲く花をさり気なく飾ることで著名な花人であり、楽市でも古い町屋と銅器という地味な組み合わせが華やぐ生け込みを依頼しました。

毎年テーマ展示を行っている金森藤平家では、出町睦子氏の金箔掻き落とし作品「四合せ」を展示。作品が空間の中で映えるよう黒いアクリル板でベースをつくり、背景には後谷芳琴氏の書、傍らには佐野猛氏のガラス製花器に唐木氏の生花を配して空間構成を行いました。また、東日本大震災で失われた御霊を供養する出町氏の「集う」では、Shimoo Designの木製台に林哲三氏の挽物による百万塔を並べて祈りの空間をつくりました。

畠春斎家では竹工芸の田辺小竹氏、鋳物の宮崎匠氏、越中瀬戸焼の釋永由紀夫氏などの作品を展示しましたが、これらは楽市を継続する中で出会いが生まれ、展示に至ったものでした。一步ずつですが、イベントを行う中で作家とのネットワークが充実してきました。金屋町の空間と楽市としての蓄積があるからこそその展示が行えた実感できた年度になりました。

[工芸作品展示出展作家]

● 実行委員会推薦作家

安藤郁子、魚住安信、内島正雄、大澤光民、岡本佳子、片山悟子、黒田昌吾、後谷芳琴、佐野猛、佐野曜子、Shimoo Design、釋永維、釋永由紀夫、田辺小竹、玉川達士、玉川宜夫、出町睦子、中島ゆり恵、中田博士、中村康平、野田雄一、畠春斎、林哲三、般若宗勘（故人）、般若泰樹、般若保、光井威善、宮崎匠、六渡心六

● 工芸都市高岡クラフトコンペ大賞受賞作家

青木良太、金子透、野口健、松永圭太

● 金屋町楽市賞平成28年度受賞作家

片山悟子、吉田絵里子、渡辺秀晴



● 金屋町楽市賞平成27大賞受賞作家

光井威善

● 日本クラフトデザイン協会会員

相川繁隆、石原実、新啓太郎、高光俊信、多田聡志、中島俊市郎、西川雅典、野田収、林久雄、稗田麻琴、彦根愛、堀紀幸、右嶋恵理、安井恵子

● 富山大学芸術文化学部・大学院芸術文化学研究科 教員、卒業・修了生、在学生

内田千月、小川太郎、木下幸、中村百恵、畑美都樹、林曉、樋川都市、持田勇貴、森田志帆、野路朋生

● 公募作家

anyato〜あんやと、稲垣揚平、岩本清商店、奥川領造、金沢職人塾（青木小波、太田正伸、大竹喜信、高田千春、武部徹、鶴見晋史、増田守世）、狩野博恵、木和田里美、竹多宏治、天麻仙極寿神、福田昭一、松村潔、森和彦、森裕一朗、矢吹覚、山本瑞生、若尾洋造（宗山窯）

● 工芸都市高岡2016クラフトコンペティション

対象作品：18歳～35歳の作家・作品（平成28年4月1日現在）
審査員：大治将典（手工業デザイナー）、安藤雅信（陶作家・百草廊主）、岡本昌子（公益社団法人日本クラフトデザイン協会 理事長）、下尾和彦・下尾さおり（ユニット家具作家・Shimoo Design）、高川昭良（高岡市デザイン・工芸センター 所長）、高橋俊宏（株式会社 エイ出版社 DiscoverJapan 編集長）、中原慎一郎（ランドスケーププロダクツ代表／プロデューサー）、野田雄一（富山ガラス工房 館長）

〔金屋町楽市賞〕

「ひかりのいれもの Lighthouse」片山悟子

「氷滴―みずたまりの詩―」吉田絵里子

「kuru-co」渡辺秀晴

〔その他の事業〕

● 金屋町茶会

・「おもてなし茶会」：宗泉寺

・「滴翠の席」：大寺家滴翠庵

・「かがやき席」：小泉家

・「学生茶会 一期一会」：緑地公園

● 唐木さちの生花講座

● ワークショップ

・錫の鋳物：鋳物工房 利三郎

・銅の鋳物：伝統工芸高岡銅器振興協同組合

・とんぼ玉：富山ガラス工房

・うちわ：富山大学芸術文化学部アートフォーオール

● 金屋町きもの通り・着物のファッションショー

● 学生プラスバンドの演奏、二胡演奏

● 食のイベント

〔運営〕

総括：加藤昌宏、企画：武山良三、街区設計・什器設計：渡邊雅志・横山天心・萩野紀一郎、展示協力：相川繁隆・嶋安夫・高川昭良・野田雄一、お茶席：小泉昇・小久保瑛子・般若陽子、生花展示：唐木さち

〔主催〕

金屋町楽市実行委員会

以下構成団体：富山大学芸術文化学部、金屋町自治会、富山ガラス工房、高岡市デザイン・工芸センター、伝統工芸高岡銅器振興協同組合、高岡市、高岡市教育委員会、高岡市観光協会、高岡商工会議所

〔協力〕

公益社団法人 日本クラフトデザイン協会、金屋町七福会、ノースランド株式会社

〔協賛〕

三協立山株式会社、三芝硝材株式会社、和楽庵、藤岡敦子礼法きもの学院

〔事務局〕

高岡市産業振興部商業雇用課